

エア配管の不備で発生する不具合について確認事項

- 溶接機の電源を入れるだけで加圧してしまう。
- グリップの制御スイッチを入れても加圧しない。
- 溶接を終えてスイッチを離しても加圧が解除しない。 等

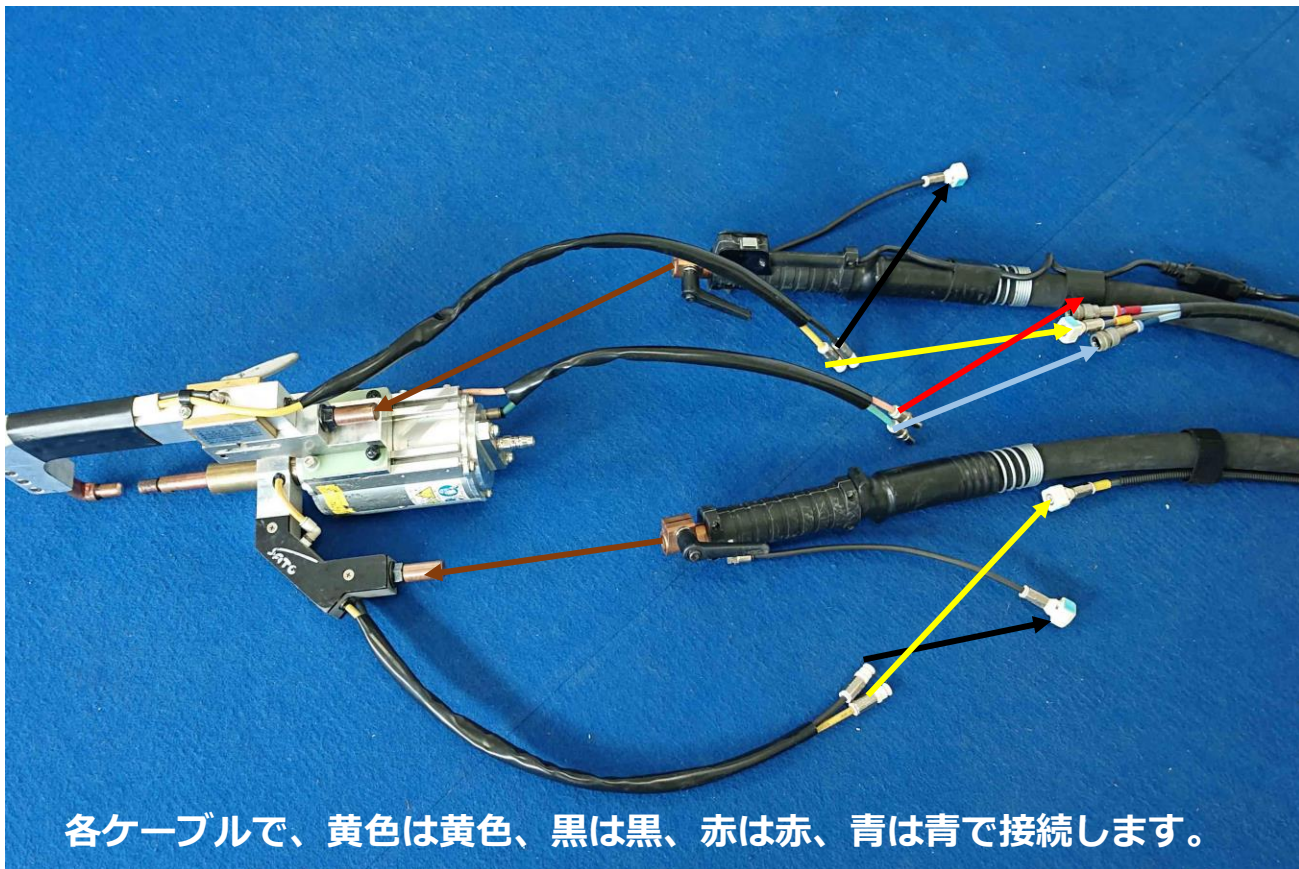
こんな症状の場合、下記をチェックしてください。

基本事項

エアを溶接機本体につなぎ、電源を入れただけの「溶接待機状態」では、赤いチューブにエア圧力がかかり、青チューブにはエア圧力がかかっていません。

溶接をするために、グリップの「制御スイッチ」を押すことで、青チューブにエア圧力がかかりエアガンが加圧します。溶接が終了しスイッチを離すと、赤チューブにエア圧力がかかることで加圧を解除し、元の位置に戻ります。

- ✓ エア配管、赤と青が逆になっている。
→赤と青を差し替えてください。
- ✓ カプラ部分での差し込み不良。
→目視で接続を確認しても、奥まで刺さっていない場合があります。写真を参照し、各場所をもう一度押し込んでみてください。たくさんのカプラがありますので、エアガンから溶接機本体まで丁寧に追ってください。
- ✓ チューブの変形
→チューブに変形や、折れ曲がった場所はありませんか？溶接機本体から溶接ガンの間で、カバーがかぶさり見えないところでもエアチューブが押しつぶされてエアが通らない場合があります。各チューブ両側を完全にカプラから外し、チューブにエアを通してみることで良・不良が分かります。
- ✓ 溶接機本体のエアレギュレーター(制御装置)の不良
→溶接機の外側にあるチューブやカプラが正常であれば内部の故障が疑われます。ヤシマに戻して修理するか、エアレギュレーターなどの関連パーツを取り寄せ、地元の修理業者等に頼んで機械内部を修理していただく必要があります。



この部分を押し下げてオスカプラを挿入します。
この部分を押し下げてオスカプラを挿入します。



赤丸の部分も奥まで差し込まれているか確認してください。

奥までしっかりと差し込まないとエアが通りません。

奥まで差し込まれていないとエアは流れません。
もう一度チューブを強く差し込んでみてください。

